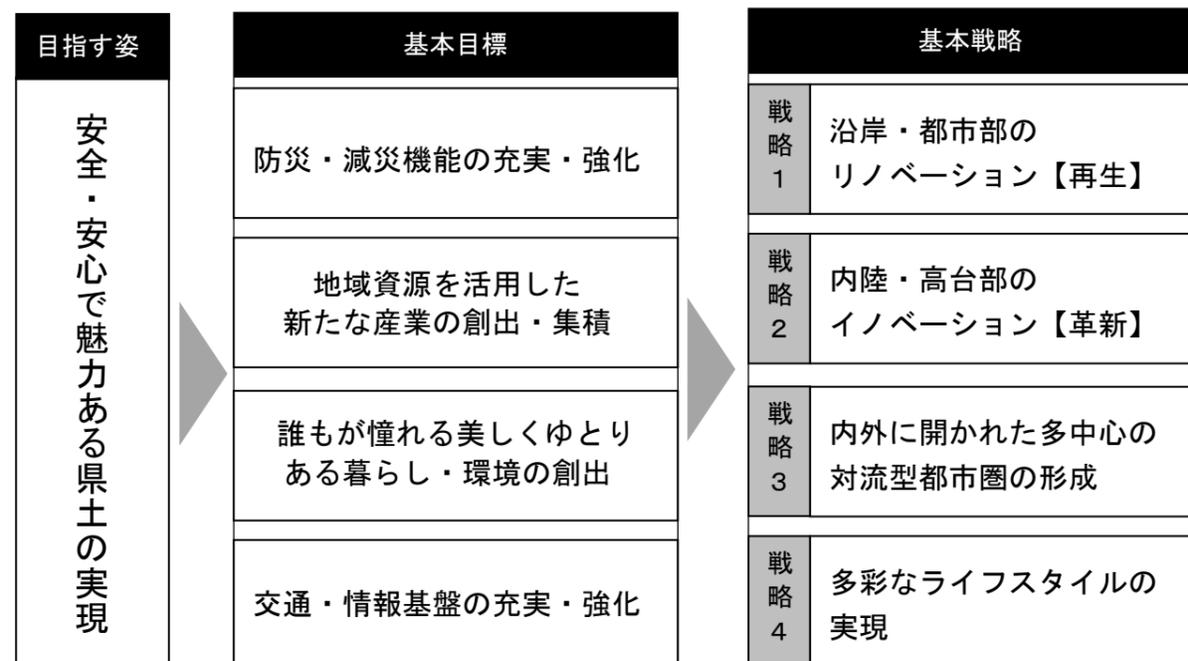


1 全体構想の概要



期間	取組
第1期 2013-2017年度	・防災・減災と地域成長が両立した新しい地域づくりの県内全域への拡大
第2期 2018-2022年度	・ふじのくにフロンティア推進区域の早期完了 ・地域間の共生・対流の創出
第3期 2023-2027年度	・重層的な広域連携による地域の個性あふれる対流型都市圏の形成 ・共生・対流の県外への拡大

2 戦略1, 2の数値目標の達成状況とその評価

【評価指標の推移】

評価指標	2017 (H29)	2018 (H30)		2022	達成状況
	基準値	見込	目標値	目標値	
戦略1 計画事業が完了したふじのくにフロンティア推進区域の割合	(2017) 32% (25区域)	44% (33区域)	47% (35区域)	(2022) 100% (75区域)	B
戦略1 ふじのくにフロンティア推進区域における工業用地等造成面積	(2013~2017) 50ha	(2013~2018) 120ha	(2013~2018) 106ha	(2013~2022) 480ha	B
戦略2 ふじのくにフロンティア推進区域における住宅地造成区画数	(2013~2017) 318区画	(2013~2018) 324区画	(2013~2018) 318区画	(2013~2022) 900区画	B

A：現状値が目標設定時の想定以上であり、目標達成が見込まれる
 B：現状値から判断し、目標達成が見込まれる
 C：目標達成に向け、より一層の推進を要する

【評価】

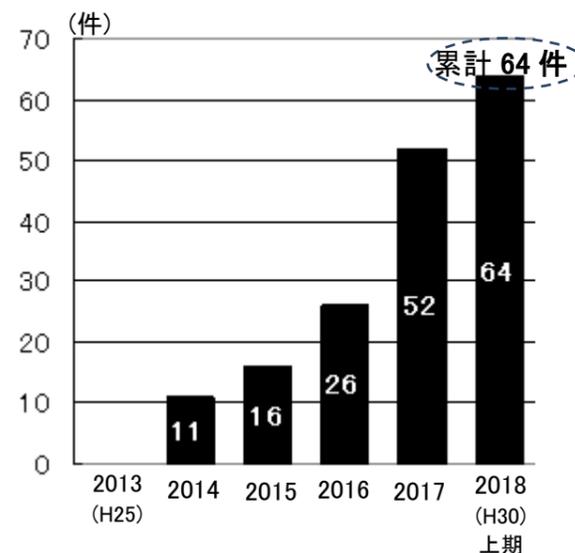
- ・「ふじのくにフロンティア推進区域の早期完了」に向け、3つの評価指標は順調に進捗が図られています。
- ・その一方で、未着手の区域（4区域）は早期事業着手を促進していく必要があります。
- ・35市町の75の推進区域のうち、4割以上の33区域で事業が完了し、21区域で事業が一部完了することで、54区域で取組の効果が発現します。

〈成果〉

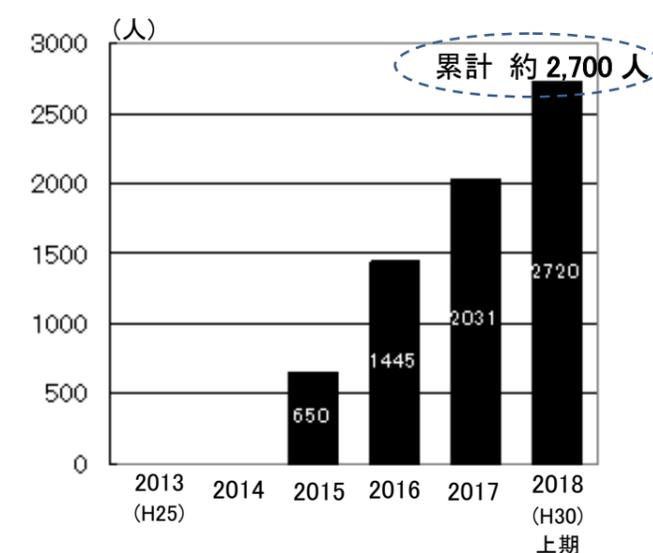
○64の企業が立地し、約2,700人の雇用が創出（H30.9月末時点）

推進区域内の立地企業数			雇用創出数
	操業企業数	防災協定締結数	
64件	32件	15件	約2,700人

企業の立地件数(累計)



雇用創出人数(累計)



○229区画の住宅地で売買契約が成立（H30.9月末時点）

住宅地			
造成区画数	契約区画数	豊かな暮らし空間認定区画数	県外からの移住世帯数
324区画	229区画	217区画	11世帯

【今後の展開】

- ・未着手区域等の課題解決に向け、支援を強化し、計画事業の早期完了を図ります。
- ・工業団地等の造成を促進するため、全庁一体となった企業・開発事業者の誘致活動等、支援を強化していきます。
- ・住宅地造成を促進するため、アドバイザー派遣等により地域の実情に即した課題解決を支援していきます。

3 戦略3, 4の数値目標の達成状況とその評価

【評価指標の推移】

- ・戦略3と4は、一体として「地域間の共生・対流の創出」の達成状況を検証する必要があります。第2期計画は、今年度をスタートとするため、評価指標の数値の推移により戦略の達成度を測ることは困難です。
- ・このため、計画策定時に設定した目標値と直近値を比較し、目標とする水準が妥当であるか検証を行います。
- ・「県民の地域活動参加率」が目標値を超えて推移したことを踏まえ、現在の目標水準を毎年度85%の達成を目指す目標値に変更します。

評価指標		基準値	直近値	目標値
戦略3	立地適正化計画作成市町数	(2016) 1市町	(2017) 2市町	(2021) 14市町
	高規格幹線道路へのアクセス道路の供用率(延長)	(2016) 62.3% (22.0km)	(2017) 62.3% (22.0km)	(2022) 84.7% (29.9km)
	地域公共交通網形成計画作成区域数	(2016) 5区域	(2017) 10区域	(2021) 17区域
戦略4	新エネルギー等導入量	(2016) 105.1万kℓ	—	(2021) 159.1万kℓ
	県民の地域活動参加率	(2017) 76.2%	(2018) 86.2%	(2022) (新)毎年度85%以上 (旧)85%以上
	移住相談窓口等を利用した県外からの移住者数	(2016) 787人	(2017) 1,070人	(2018~2022) 累計4,000人

【評価】

- ・都市機能の適正な配置や、拠点間を繋ぐネットワークの形成、多彩なライフスタイルを選択できる環境整備は進んでおり、今後、目標達成に着実に取り組んでいくことが重要です。
- ・進捗が図られている推進区域の取組を点的なものに終わらせることなく、他の推進区域や中心市街地のまちづくりとの連携を図り、事業の相乗効果を高めていく必要があります。

【今後の展開】

- ・今後の人口減少の進行を見据え、推進区域や中心市街地等と新たに整備する産業・文化の拠点を計画的に連携・補完させることにより、持続的成長を可能とする面としての圏域づくりに取り組んでいきます。
- ・革新的技術等を活用し、利便性が高く快適に暮らすことができる、自然と調和した県土づくりを目指す「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”」の考え方にに基づき、広域的な圏域づくりの先導的モデルとなるエリアの形成に取り組めます。
- ・市町によるエリア形成のための計画策定や、県が認定したエリアにおける新たな拠点整備等に対し、全庁を挙げて支援を行います。
- ・来年度以降の取組を評価・検証するため、評価指標に見直しを加え、PDCAサイクルを回しながら圏域形成の着実な進捗を図っていきます。

《「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”》

◎背景と対応方針

- ・今後、確実に進行する人口減少下において、持続的に質の高い都市的サービスを提供していくためには、様々な都市的機能を持つ拠点が相互に連携・補完する広域的な圏域づくりを進める必要があります。
- ・広域的な圏域づくりに当たっては、今後の社会課題の解決への活用が期待されるAI、IoT等の革新的技術や、今後、整備が進む交通・情報ネットワークを積極的に活用し、将来を見据えた利便性の高い生活の維持・向上を実現していくことが有効です。

◎基本的な考え方

革新的技術等を活用し、利便性が高く快適に暮らすことができる、
自然と調和した県土づくり

「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”」

＜「スマートガーデンカントリー“ふじのくに”」の考え方に基づく取組の視点例＞

- ◎安全・安心（ICT等の先端技術活用）
- ◎エネルギーの地産地消（省エネ×創エネ×蓄エネ）
- ◎スマート農林業・スマートファクトリー等
- ◎暮らしやすいまち（モビリティの向上等）
- ◎生活と自然が調和したゆとりある居住空間
- ◎美しい景観の保持・創造
- ◎文化・歴史を生かした個性あるまち

＜行程のイメージ＞

